

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400030		
法人名	有限会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい稲荷	ユニット名	1階
所在地	静岡県裾野市稲荷6-2		
自己評価作成日	平成30年9月3日	評価結果市町村受理日	平成30年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2291400030-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成30年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の事業所目標として、「おもてなしの精神で稲荷と地域の方々をつなぐ架け橋となる」を目標に行事等を通して、地域やボランティアの方々とのつながりを大切にしています。多くの行事に地域の方々も参加して頂いています。
 運営5年目となり平均介護度が4となっています。利用者様の今出来る事や身体の安全安楽、ご家族様の想いを意識した支援を今までの運営以上に大切にしています。
 職員育成では過去の反省を常に心に置き丁寧さと思いやり、顔色一つから声のトーンまでも気に掛け言葉かけを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

行動力のある管理者のもと、自己評価や必要資料の準備等は職員全員で取り組んでいる。日常の散歩の他、県内外の観光地等にも積極的に出かけていたが、年齢と共に介護度が上がり無理な外出をせず利用者の身体の細かい支援に変えている。外出の頻度が減った代わりに来訪者が増えたり、授産施設のパン販売が来て事業所内で利用者が自ら選んで購入したりしている。管理者は西日本豪雨災害のボランティア活動に参加し、その体験を報告して地域に活かしていくことを検討している。前例がない事でも利用者本位で職員一丸となって積極的に取り組み、地域に溶け込んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な職員面談の際には必ず一人ひとりと話し合っている。何が足りていないのか、何に着目し行動しているか。何かアクシデントが起きた時にも理念を見返している。	法人理念「敬愛・創造・貢献」のもと、事業所理念「つなぐ架け橋」を掲げて事業所内に掲示している。職員面談で一人ひとりに話しをして、自分たちの行動が「理念に沿っているか」「かけ離れていないか」の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	屋内外施設行事では事前に地域回覧を回す様にしたところ多くの地域住民が来訪してくれる様になりました。施設で使う新聞紙や食器など、好意で寄付に訪れる方もいます。	回覧版を回したことで情報が伝わり、コーラスや腹話術などのボランティア来訪時には、地域の人が多数参加してくれるようになった。地域の行事にも参加し、つるし雛等の事業所の飾りを地域の人が持ってきてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域河川清掃や防災訓練に利用者様と参加している。認知症家族会にも招かれる様になり施設運営の理解と協力を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度行う会議はご家族は勿論、民生委員や行政の参加も促している。参加率を上げる為、行事に合わせてたり裾野地区他事業所と合同で行うなど努力している。	運営推進会議は2か月1回開催している。家族や町内会長・介護保険課職員等の他に利用者も参加して、事業所の活動報告や事故報告等が行われている。今回の西日本豪雨被害ボランティア活動後には報告会を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度、裾野市で取り組む他職種連携事業のメンバーに選んで頂きました。超高齢化時代到来目前を見据え少しでも裾野市の役に立てるよう勉強して行きたい。	市の在宅医療推進委員に選ばれており、2年任期で4回の会議に出席している。多職種の委員と共に、地域の福祉活動についての取り組みに力を注いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしています。年4回の研修開催、都度アンケート調査を行っている。スピーチロックについても会議を行いケアの質の向上とチームアプローチに力を入れている。	法人と事業所で各2回、計4回の研修で職員に必ずアンケート調査を行っている。「ちょっと待って」に代わる言葉を探して標語を作る等、職員同士で注意しながら声を掛け合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止と同様に研修の開催。虐待の芽を早期発見し摘み取る努力をしている。日頃の業務内での不適切な言動は注意し合える職員間になる様心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解をしている職員は少なく、事業所での研修は行えていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約者の方に一時間半程の時間を設けて頂ける様、事前にお伝えしています。特に、事故のリスクに関しては丁寧に説明をし理解を頂ける様に努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱やクレーム要望書ではご家族も書き難い事からご家族から口頭で頂いた意見や要望を改善提案報告書の書式に変更し活用している。	家族の意見をクレーム書ではなく改善提案報告書と書式を変えて書きやすく工夫し、ちょっとした要望でも職員全員で情報を共有して改善に繋げている。運営推進会議には家族の参加も多く、多数の意見が寄せられている。	家族から職員の顔と名前が一致しないという意見がある。家族への満足度調査等も行い、意見を聞くことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働き易い職場づくりを心掛けている。会議で挙げた職員意見は福利厚生に繋がる様になっている。自事業所からの提案で被服費の支給に繋がった事もある。雇用管理改善アンケートも実施している。	職員からの意見や要望を法人に提案し、被服費が支給がされるようになった事例がある。年1回のストレスマネジメントや雇用管理改善アンケート等、職員の意見を聞いて改善につなげる仕組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内キャリアパス制度と並行し職員面談は多く時間を割くようにしている。職員個々の役割に関しても信頼して任せている。有給も取り易い環境になって来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度事業所目標でもある外部研修に行く機会を設ける努力をしている。職員によって意識の差があるのが課題。新人職員教育ではブラザー制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	裾野市主催、地域主催の会議や行事への参加交流出席に心掛けている。他会社が定期的に行っているメンター研修は評判が良く参加職員が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様だけでなく、ご本人様にも施設見学を推奨しています。ご本人様の性格や家族構成はもちろんのこと、食生活や生活のリズムやスタイル等生活歴から多くの情報収集をする様に気を配っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、職員もご家族様と話をさせて頂き、気掛かりな事や意見、希望などを引き出す努力をしています。また、こまめに電話連絡を行い、生活の様子や変化等のお知らせをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の生活の中で今、何が 필요한のか、どのようなケアが適切なのかを見極め困難であっても柔軟に対応する努力をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様を人生の大先輩だと敬い「助けて欲しい」「教えて下さい」等、共助の対象としても支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設とご家族様は共に一丸となり支援していきましょうとお伝えしている。面会だけでなく、外出や行事等、共に参加して頂き一緒に過ごす時間を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活の安定の為に、周辺地域の商店や、福祉施設などに協力が得られるよう理解を広げる働き掛けをしています。ボランティアにいらした方と知り合いだったケースがありそこから面会に繋がった事もある。	職員との会話が弾み関係が密になったことで、事業所が自宅のようになり、帰宅願望を持つ利用者がいなくなった。地域住民とは顔馴染みの関係であり、決まった時間に来訪して利用者と折り紙を楽しむ近隣住民もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア同士の交流も盛んに行い、レクや買い物等一緒に行っている。会話が弾むご利用者同士が隣に座れる様にし、交流出来るよう努力をしている。また、他事業所のご利用者様との交流も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設、医療関係へ移られた場合はサマリー等で情報交換を行っている。退所後も必要に応じて面会を継続している。葬儀に参列させて頂いたり、ご家族がボランティアとして来訪する時もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当者が状態の把握を行い、趣味、趣向を把握出来るよう努めている。ホームでの生活に対する意向は介護計画の更新の度、アセスメントを行いニーズを取りこぼさないようにしている。	アセスメントや家族からの情報、日常生活の関わりの中で本人の言葉を拾い、現場職員の声をもとめて思いの把握に努めている。場合によっては医師の意見を聞くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークの段階で生活歴を聞き出しその人に合った支援を見出している。開始時には馴染みのものを持ってきて頂いている。ご本人やご家族から情報収集の把握に努め、これまでの生活歴を考慮しケアに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の持つ力の発見や気付きがある時には職員全体で情報共有に努めている。出来ないことよりも出来ることに焦点を当てることでその方の力を発揮できるケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のフロア会議にて各利用者様の状態についてケアの方針や関わりについて意見を出し、必要時プランに反映している。また、ご家族様面会時によくお話を伺いケアプランに生かしている。	各フロアリーダーが、利用者一人ひとりの状態について分かり易く文章にして詳細な資料を作成している。月1回のフロア会議では、個々の課題を資料に基づいて話し合いを行い介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に利用者の状態を詳細に記載している。介護の方法等が急に変更される場合は申し送りノートにて情報の共有を図っている。日々の申し送り、ケース記録が主となっているが職員間で声を掛け合い情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時、又、入院中等状況に応じて対応している。ご家族が気軽に出入り出来る雰囲気作りを努めている。また、写真やお便りで様子をお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサロンへ積極的に参加し交流を図っている。年に2階の一斉清掃や地区防災活動にも参加している。施設内外で行事の際は回覧板を回し地域の方、ご家族様にも参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診ではまかなえず受診が必要な時には職員が対応している。必要な時は主治医からご家族様に状況説明も行っている。	利用者は希望する医療機関で受診し、ほとんどの利用者が事業所の協力医で月2回の往診がある。協力医とは24時間の緊急体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診では事前に情報をお伝えしている。特変時にはオンコールし素早く対応し指示が貰えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の看護師、医療連携室等の職員とも良好な関係が出来ている。退院の際も連携し提携医やご家族様も交えカンファレンスを行い早期退院にも繋がっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医からのお看取り時期を伝えられた際にご家族様と共に話し合いを行っている。看取りに関して定期的に会議内で職員と共に話し合いや教育を行うことで丸となって一人一人の利用者様と向き合っている。	重度化した場合の対応に係る指針や看取りに関する指針があり、医師や家族と話し合っ終末期の支援を行っている。事業所で看取りについての勉強会を行い、月1回のフロア会議でも容態の変化等説明・話し合いをして職員全体で看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の大半が裾野消防署で行なわれる普通救命を受講している。急変時の対応方法や利用者が患っている病気に対し、会議にて勉強会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPが作成され、年に3回のグループ内全体での総合防災訓練実施している。その他にも、安否コールシステムを使用した連絡訓練や風水害を想定した訓練、火災訓練を年2回を行っている。	年2回の防災訓練の実施、地域防災指導者養成講座の受講や地域の防災訓練に参加する等、災害対策に熱心に取り組んでいる。管理者は優良防火管理者として市から表彰されており、食糧や水備蓄・非常用の発電機も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴など必ずドアを閉めることでプライバシーを損ねないように配慮している。利用者様に合わせ、馴染みの関係性を作ってから支援に当たるように指導の際に配慮している。	新しい職員は会話に専念し、利用者との関係性ができてから入浴介助を行う等、プライバシーや羞恥心を損ねない対応をしている。おもてなしの心を持ち、同意を得た上で本人が望む名前では呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者様に色々な提案の言葉かけをし、利用者様に自己決定していただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースを大切にし、安心・安全・安楽な支援を行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候に合わせた服装や定期的に来て下さる訪問美容室さんに髪をカットして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人一人の嚥下摂食状態に合わせた食事の提供や職員と共にキッチンに入り食事の準備から片付けを行っている。利用者様一人ひとりの役割を重んじている。	食事は職員が手作りしている。月1回はパン販売車から自ら選んで食べたり、家族に出身地の郷土料理を作ってもらったりして皆で楽しんでいる。利用者は状況に応じて、食事の下ごしらえや食器拭き等を役割としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量は個人のバイタル表に記載し一人ひとりの状態把握に活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1で歯科衛生士さんに来ていただき口腔内の様子を見て頂き、情報共有・指導を頂く事で口腔内の状態・本人の力に応じた支援が行えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用することで排泄リズムを知り一人ひとりの身体状態に合わせてリズムを意識しご案内しています。	チェック表で一人ひとりの排泄リズムを把握し、本人の行動や様子で声を掛けてトイレ誘導を行っている。尿意を訴えることができる利用者については、フロア会議で話し合い自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や短時間でも歩行を意識している。オリーブオイルやヨーグルト、食物繊維を多く含んだ食材など意識して毎食提供出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴にお誘いする際は籠を準備し利用者様と一緒に衣類を選んだりさせていただいている。拒否のあるご利用者様に関しては、無理強いをせず人を変え、時間を変え、日付を変え対応している	体調を見て声掛けをして入浴を行っている。シャワー浴ではタオルを巻く等、羞恥心に配慮している。入浴をしない時は、清拭やベッドで洗髪を行い清潔に保っている。自立している利用者と健康ランドへ行くこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	90代のご利用者様が多く、日中もゆっくりと出来る様にお昼寝の時間を大切にしている。リクライニングチェアやソファも活用している。お休みになる際はエアコン等活用し室温を意識している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	社内の服薬マニュアルに沿って服薬支援を行っている。往診対応者が薬の変更や追加の情報をチェック表に即座に記入する。配薬者、事前準備者、確認者と3人で確認することで自故も減っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや食器拭きなどきちんと丁寧にやって頂いている。体調次第だが、調子の良い日にはキッチンに立ち職員と一緒に食事作りも行っている。全体で楽しめる行事から個別な支援に心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	重度化も進んでおり、以前より外出の機会は減ってきてはいるが、無理をしない程度の近隣への散歩や、同グループ内の他事業所や近隣施設の行事や市主催の行事等に外出し室内では見られない笑顔、会話があります。	介護度が上がり、以前のように県外への旅行や観光地への遠出は難しくなっているが、回覧板を届けたり、近くのコンビニエンスストアへ歩いて買い物に出かけたりしている。ベランダに出て外気浴をする等、利用者の状態に合った外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1階のご利用者様は金銭の管理をされている方はいませんが、買い物支援の際ご自分で好きな物を選んで頂きレジでの支払いをして貰っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えが無くても職員が用事で掛ける際に電話口に出て頂き、ご家族様と会話出来る様に支援している。文章を書くことが難しくなっている為、手紙やお便りに名前だけでも書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアには生花を飾り、季節感を演出しています。フロアや居室、トイレの匂いには気を使っています。懐かしの音楽を流すことで、利用者様もロズさんで楽しまれている。思い出の写真を掲示し利用者様と回想している。	生け花が得意な利用者が花を生け、利用者の手形が花びらになっている飾りや地域の人が持ってきてくれた習字・花の絵画等が飾られている。清掃はシルバー人材センターに依頼しているが、市の介護施設では初めての取り組みである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	看取り対応の方が1名いらっしゃいますが、居室で一人で過ごすのではなく、日常生活音の中で皆と一緒に過ごす時間を大切にしています。席に拘りのある利用者が少なく、毎日好きな席に座り思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご家族様にお願いし、馴染みの家具や写真等を持ち込んで頂いています。身体状況に合わせ、福祉用具の活用も職員からご家族様へ提案させていただいています。	各部屋にはエアコンと空気清浄機が設置され、使い慣れた家具や家族の写真等が置かれている。入口の名前を、本人の似顔絵に替える取り組みを始めている。利用者の尊厳を尊重して、鍵をかけられる居室がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	重度化が進み「出来ること」「わかること」、も少なくなってきた。今出来ている事が、時間がかかってもなるべくご自分で行えるように、必要以上に手出ししないよう会議などでも共有し意識している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400030		
法人名	有限会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい稲荷	ユニット名	2階
所在地	静岡県裾野市稲荷6-2		
自己評価作成日	平成30年9月5日	評価結果市町村受理日	平成30年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2291400030-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の事業所目標として、「おもてなしの精神で稲荷と地域の方々をつなぐ架け橋となる」を目標に行事等を通して、地域やボランティアの方々とのつながりを大切にしています。多くの行事に地域の方々も参加して頂いています。
 運営5年目となり平均介護度が4となっています。利用者様の今出来る事や身体の安全安楽、ご家族様の想いを意識した支援を今までの運営以上に大切にしています。
 職員育成では過去の反省を常に心に置き丁寧さと思いやり、顔色一つから声のトーンまでも気に掛け言葉かけを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な職員面談の際には必ず一人ひとりと話し合っている。何が足りていないのか、何に着目し行動しているか。何かアクシデントが起きた時にも理念を見返している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	屋内外施設行事では事前に地域回覧を回す様にしたところ多くの地域住民が来訪してくれる様になりました。施設で使う新聞紙や食器など、好意で寄付に訪れる方もいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域河川清掃や防災訓練に利用者様と参加している。認知症家族会にも招かれる様になり施設運営の理解と協力を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度行う会議はご家族は勿論、民生委員や行政の参加も促している。参加率を上げる為、行事に合わせたり裾野地区他事業所と合同で行うなど努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度、裾野市で取り組む他職種連携事業のメンバーに選んで頂きました。超高齢化時代到来目前を見据え少しでも裾野市の役に立てよう勉強して行きたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしています。年4回の研修開催、都度アンケート調査を行っている。スピーチロックに関しても会議を行いケアの質の向上とチームアプローチに力を入れている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止と同様に研修の開催。虐待の芽を早期発見し摘み取る努力をしている。日頃の業務内での不適切な言動は注意し合える職員間になる様心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解をしている職員は少なく、事業所での研修は行えていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約者の方に一時間半程の時間を設けて頂ける様、事前にお伝えしています。特に、事故のリスクに関しては丁寧に説明をし理解を頂ける様に努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱やクレーム要望書ではご家族も書き難い事からご家族から口頭で頂いた意見や要望を改善提案報告書の書式に変更し活用している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働き易い職場づくりを心掛けている。会議で挙げた職員意見は福利厚生に繋がる様にしている。自事業所からの提案で被服費の支給に繋がった事もある。雇用管理改善アンケートも実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内キャリアパス制度と並行し職員面談は多く時間を割くようにしている。職員個々の役割に関しても信頼して任せている。有給も取り易い環境になって来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度事業所目標でもある外部研修に行く機会を設ける努力をしている。職員によって意識の差があるのが課題。新人職員教育ではブラザー制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	裾野市主催、地域主催の会議や行事への参加交流出席に心掛けている。他会社が定期的に行っているメンター研修は評判が良く参加職員が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のお話を良く聞くなどし安心してすごしていただけるよう努めています。ご家族、利用サービス事業所の職員にも情報を頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後の様子を細かくご家族様にお知らせし要望やクレームについて対応し安心して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	より良いサービスを提供できるようご本人様、ご家族様の意見を聞き入れ対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の自立支援においても助け合う事、出来る事を大切に、信頼し合える関係作りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等、連絡を散りあい、密にしご家族様に多く参加して頂いています。ご家族様にご協力して頂き、共に助け合い協力して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物支援や、地域の温泉外出支援等を通し地域との交流に心掛けています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の様子を観察し、寂しい思いをしていないか目配り、気配りをし利用者様同士の関係性を考え、席順にも配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設、医療関係へ移られた場合はサマリー等で情報交換を行っている。退所後も必要に応じて面会を継続している。葬儀に参列させて頂いたり、退去された方のご家族がボランティアとして来訪する時もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当者が状態の把握を行い、趣味、趣向を把握出来るよう努めている。ホームでの生活に対する意向は介護計画の更新の度、アセスメントを行いニーズを取りこぼさないようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークの段階で生活歴を聞き出しその人に合った支援を見出している。開始時には馴染みのものを持ってきて頂いている。ご本人やご家族から情報収集の把握に努め、これまでの生活歴を考慮しケアに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の持つ力の発見や気づきがある時には職員全体で情報共有に努めている。出来ないことよりも出来ることに焦点を当てることでその方の力を発揮できるケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のフロア会議にて各利用者様の状態についてケアの方針や関わりについて意見を出し、必要時プランに反映している。また、ご家族様面会時によくお話を伺いケアプランに生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に利用者の状態を詳細に記載している。介護の方法等が急に変更される場合は申し送りノートにて情報の共有を図っている。日々の申し送り、ケース記録が主となっているが職員間で声を掛け合い情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時、又、入院中等状況に応じて対応している。ご家族が気軽に出入り出来る雰囲気作りに努めている。また、写真やお便り様子をお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の協力のもと、回覧版等で情報を得て、地区の一斉掃除に参加し、ふれあいサロン参加や近隣の方を施設へ手作業ボランティアとして来設して頂き交流をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	インテークの段階で家族の意向を聞き家族の希望に十分に配慮している、専門通院・入院等は本人家族の意向に沿っている、提携している医療との連携、24時間の緊急体制ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設巡回看護師による身体管理及び提携医療を結んでいる、訪問診察・訪問看護を受けている。月2回の定期往診連携医療〔岡クリニック・大岡マサキクリニック〕の健康管理を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と連携をし、情報共有を途切れないようにしている。入院の際の説明には、職員も同席し説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの対応が必要になった場合主治医と家族とカンファレンスを開催しこれから、の方向性や対応を検討話し合っている。ターミナルの意向を家族に確認し文章を渡し交わしている。ご家族に同意をしてもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成している。勉強会や、実施マニュアルに沿って、行動できるように努めている。担当クリニックの主治医や看護師により、予測される、急変の際への対処方を事前確認し職員に伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内の研修にて非常災害の勉強会を行い防災についての理解や意味を深める消防署の方来設して頂き、定期的に訓練を行い意見、確認をもらっている。避難経路確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄を失敗される方が多くなりました。汚れた衣類やパット交換時の言葉かけには羞恥心に配慮した言葉を選びます。職員には言葉の引き出しが多くなる様に指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方が多くなった中、簡単に指差しが出来る様な言葉かけや二択方式でコミュニケーションを取るようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員教育の中に「ちょっと待って」の言葉を完全に無くして行く研修を開催。職員本位の支援から完全に脱出する意欲で取り組み出した。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は外部からネイリストを呼んでいたが、職員自らがネイルを施すようになった。簡易的鏡の購入をし、洗面台まで行かなくてもテーブル席で髪をとかしたり顔を拭いたり出来る様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様によっては役割への拘りがあります。お茶係、洗い物係、その方の遣り甲斐や役割を奪わない様に支援している。職員はやってしまうや手を出し過ぎないを重んじています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節によっては全員の水分チェックを行います。租借、嚥下状態を把握し連携医療先とも協力しながら食事形態や栄養面を考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯の方、義歯の方それぞれに合った道具を使用し、連携先の衛生士より毎週指導を頂きながら取り組んでいます。必要に応じて歯科受診にも積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床時に加え、食事前や後に言葉をかけトイレへご案内しご本人の意向を聞きながら支援し、排泄を行なっている。夜間には転倒リスクのある方、トイレの場所が遠い為、お部屋にポータブルトイレを置き言葉かけをし排泄支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	疾患の為胃腸炎のある方やには、消化に良い物、排泄時には腹圧をかけ自立で排泄出来るよう便秘を起こさないようイオンゼリーや、発酵食品を提供し予防しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番に入りたいと言われる方や、入浴したいと言われたりする方に対応するよう支援している、2対応立位不可能な方、同じ施設の他事業所の機械浴を自事業所の職員が行き利用させてもらっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時の前に、水分提供の際ホットミルクをみなさんとテレビを見ながら楽しむ時間を設けています。お部屋に早く休みたい方は居室でのテレビを楽しんでもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の知識を会議で共有し、その方の疾患を勉強をする。利用者様が何の薬を服薬しているのか、排便コントロールを把握し下剤を調整したりして支援しています。薬の内容を説明し安心して眠っていただけるよう、言葉掛けをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日家事では、一緒に調理を手伝って買いながら、献立を考えてもらったり、味見をしていただいたりし調理支援をしています。洗濯物は毎日干したり取り込むところからして頂き、たたんでもらったり、役割、支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	社用車で買い物、本人の希望で近所のコンビニなど散歩して買い物をしたりする支援を行っています。他事業所のと連携を取りお互い行事の参加をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向に添ってスーパーや衣料センターに行きます。ご自身で好きな物を購入し立替金として買い物支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年に一度の年賀状や、暑中お見舞いなど、ご本人の訴えが無くとも、ご家族様に写真入りのハガキを送ります。字が書ける利用者様には、書いていただきポストへ投函してもらい、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアのトイレ内、業者と提携し消臭剤を設置し、定期的に変換しています。共有スペースフロア利用者様の体温に合わせて室温を調整し居心地よく過ごしていただけるよう支援しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用フロアにて親しい利用者様同士、隣同士になるよう、工夫をしています。男性同士隣になるよう席順に配慮しているが、時には女性の席に行き交流するよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご家族様にお願いし、馴染みの家具や写真等を持ち込んで頂いています。身体状況に合わせ、福祉用具の活用も職員からご家族様へ提案させていただいています。		
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方のお部屋のドアに表札を貼り、ご本人が部屋の位置が分かるように工夫しています。トイレ・お風呂場など絵を貼り分かる方に自由に入出入りできるよう支援しています。		